

令和4年版「男女共同参画白書」から

今年度の「男女共同参画白書」が刊行されました。白書では、前年度(令和3年度)の男女共同参画社会の形成の状況や促進に関する施策がまとめられています。

令和4年度の特集テーマは「人生100年時代における結婚と家族～家族の姿の変化と課題にどう向き合うか」となっています。

特集の第1節、第2節では、家族の姿の変化と人生の多様化、結婚と家族を取り巻く状況について、政府統計を中心とした各種統計データ及び内閣府で実施した意識調査等を中心に整理されています。しかし男女間の賃金格差や働き方等の慣行、さまざまな政策や制度、無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)を含む固定的な性別役割分担意識等が、依然として戦後の高度成長期、昭和時代のままとまっていることが指摘されています。

そして第3節では、人生100年時代における男女共同参画の構造的な問題に起因する課題について、以下の5つの項目を優先的に対応すべき事項としてあげています。時代の移り変わりとともに、家族と人々の人生の姿の多様化を念頭におき、誰ひとり取り残さない社会の実現を目指すとともに、幅広い分野で制度・政策を点検し、見直していく必要があります。



内閣府男女共同参画局 編集
329ページ
2022年6月14日発行

女性センターで
閲覧できます。

第3節 人生100年時代における男女共同参画の課題

1. 女性の経済的自立を可能とする環境の整備

- ・男女間賃金格差の解消
- ・成長産業への女性の労働移動
- ・ケア労働への評価、女性が多い保育・介護等の分野の賃金の改善
- ・地方における女性活躍推進

2. 世帯単位から個人単位の保障・保護/無償ケア労働を担っている人への配慮

- ・マイナンバー制度等を踏まえた、個人を単位とした制度設計

3. 早期からの女性のキャリア教育

- ・将来の職業選択に資する情報提供
- ・女性の就業に直結するリスクリングの機会の提供やリカレント教育等

4. 柔軟な働き方の浸透 働き方をコロナ前に戻さない

- ・テレワークや在宅勤務の一層の普及
- ・ワーク・ライフ・バランスの実現
- ・女性が昇進を目指す環境作り

長い人生の中で
経済的困窮に陥ることなく、
尊厳と誇りをもって
人生を送ることのできる
社会の実現

5. 男性の人生も多様化していることを念頭においた政策

- ・男性相談窓口の整備・拡充
- ・結婚支援、子供・子育て支援
- ・デートDV、ハラスメントに関する教育・啓発

内閣府男女共同参画局 HP (ホームページ)からダウンロードできます。
http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/index.html

なは女性センターを利用される皆さまへご協力をお願い



「なは女性センターにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って、ご利用いただきます。

体調のすぐれない方は、ご利用をお控えください。マスク着用、検温、手指消毒のご協力をお願いします。
今後の状況により、変更する場合があります。最新の情報は市ホームページでご確認ください。

人生の主演は自分！家庭の中から男女共同参画を

ちねん きよこ

知念 清子さん(那覇市女性ネットワーク会議)

第16期・那覇市男女共同参画会議の委員7人の皆さまをご紹介しますインタビュー企画。第4回は、知念清子さん(那覇市女性ネットワーク会議「あけもどろ女性の会」)です。

★－那覇市女性ネットワーク会議の概要を教えてください。

女性たちの学習・交流の場づくりを目指し、2016年に発足しました。「沖縄県女性の翼」の参加メンバーを中心に、81人が所属・活動しています。本年度は女子差別撤廃条約の勉強会や、アナウンサーの狩俣倫太郎さんを講師にお迎えして「性の多様性」の講演会を開きました。おきなわ女性財団理事長の大城貴代子さんをはじめ、多様な経験がある皆さんと一緒に楽しく活動しています。

★－女性に関する活動を始められたきっかけは？

大きなきっかけは、沖縄県女性総合センター(現在の沖縄県男女共同参画センター)「ているる」での勤務経験です。私は42年間、琉球銀行(以降は琉銀)に勤めていましたが、1998年からの2年間は「ているる」に出向する機会をいただきました。ジェンダーについて学び、女性たちを取り巻く実状を目の当たりにしたことが、現在の活動につながっています。

★－支店長まで務められました。

男女の壁はなかったのでしょうか？

女性では6人目の支店長として、那覇市役所内出張所の所長を務めました。入行当時は、男女雇用機会均等法の施行前。女性が高卒か短大卒が主流だった時代です。けれど琉銀では、自分で努力して資格を取得し、結果を出して昇格していく「土俵」は女性にも開かれていました。もちろん家庭の事情などから昇格を目指さない人もいましたが、「男女とも平等に挑戦できる」という点では、女性にも開かれた職場でした。私がチャレンジを続けられたのは、「あなたが挑戦するなら、私も頑張る」と言い合えた仲間のおかげ。妊娠中に昇格試験の面接を受けたこともあります。もちろんダメでしたが、挑戦したかったんです。やる気がないと思われるのが嫌だったんですよね。

★－男女共同参画で大切にしたいことは？

「家庭の中から男女共同参画！」ですね。人生の主演は自分です。もちろん、妻は夫の、夫は妻の、サポート役になることはあります。でも、どちらか一方だけがサポート役ではない、ということです。自分のことは自分で決める！ 全てはそこから始まると思います。行政には女性登用をしっかりと進めてもらいたいです。

★－いつもエネルギーが豊富です。健康の秘訣は？

食育活動を続けていて、味噌づくりは20年ほど続けています。梅干しも作りますよ。2年ほど前から女性専用フィットネスにも通っています。体重5キロ、ウエスト周りは9センチ減りました。糖尿病の数値も改善しましたよ。趣味のボウリングも続けていて、マイボールも持っています。健康には「食事と休養と運動」が基本ですね。

【プロフィール】

(ちねん・きよこ)

那覇市女性ネットワーク会議「あけもどろ女性の会」会計。1966年、琉球銀行に入行。本店営業部を皮切りに寄宮支店(開設準備委員)、東京支店(開設準備委員)、那覇支店、人事部、1998年4月～2年間沖縄県女性総合センター(現在の沖縄県男女共同参画センター)「ているる」に出向。本店営業部那覇市役所内出張所長2年間、人材派遣センターオキナワで常務取締役を歴任。那覇市出身。那覇商業高校卒。2人の娘と3人の孫がいる。



★－銀行に就職された理由は？

求人が真っ先に来たからです(笑)。1966年、18歳で入行して2008年に定年退職するまで、琉銀に育ててもらったと感謝しています。本土復帰に合わせ1972年3月から2年半、東京支店で勤務しました。20代で東京への憧れもあったので、転勤の話をいただいた時には「超ラッキー！」でした(笑)。ホームシックにもなりましたが、一人旅行まで楽しめるようになりましたよ。動じない自分に成長させてもらいましたね。

★－子育てとの両立は大変だったのでは？

30歳で結婚、32歳で長女、34歳で次女を出産しました。私が子育てした当時の産休は、産前産後各6週。行員は朝8時までに出勤し、夜遅くまで働くのが当たり前だった時代です。実家から1分の所にマンションを買い、両親が保育所の送り迎えをしてくれ、夕ご飯まで食べさせていましたね(笑)。実家の全面的なサポートがないと、銀行は続けられない時代でした。保育園に娘を預ける時に泣き叫ばれた時など、辞めたいと思うことは何度もありましたよ。両立の大変さは私自身が実感していたので、人事部の担当として、行員の異動や配置を考える際には、できるだけその人の状況を考慮しつつ、各支店の人員バランスも勘案してスムーズに仕事ができるよう努めていました。

講座を終えて

講座名：ヤングケアラー 理解を深めて「できること」を考える
開催日：2022年6月11日(土) 午後2時～4時 参加者：40人
講師：名城健二（沖縄大学福祉文化学科教授）



会場となった、
なは市民活動
支援センター。
多くの参加者
がありました。

名城健二教授は、ケアラー状態にある子の中には「我慢している、あきらめている子もいる。周囲の大人が気づき、声を掛けることが大事です」と強調されました。子どもが自分の家庭の状況を「当たり前」と思っている場合や、「知られたくない」と思っているケースもあり、「子どもは自ら発信できず、発見が難しい」「保護者と子どもが委縮しないよう、ヤングケアラーという言葉が一人歩きしないよう、配慮が必要です」などのアドバイスをいただきました。

厚生労働省の調査でケアラー状態にある子が、中学2年の約17人に1人(5.7%)、全日制高校2年の約24人に1人(4.1%)となっていることや、名城教授が手掛けた糸満市内の調査結果(小学5.6、中学生対象)では「7人に1人(14.3%)」に上ったことなど、各種統計も紹介されました。「誰かに相談するほどの悩みではない」と回答した中高生が多いことに触れ、「地域社会が諦めさせているとも言える」と解説しました。本年度には国による児童生徒への実態調査が全国的に実施されるとし、「全国や県内の詳細な状況が見えてくると思う」との見通しを示されました。



▲講師の名城健二教授、画像での資料を数多く、ご用意いただきました。

関わり方の視点として、①「頑張っているね～」などの声掛けは、ケアの行動を強化しかねないので安易に褒めない ②専門職などケアをする代替りの人を探し説明する ③子どものやりたいことの時間(部活・遊びなど)を保障できるよう支援する ④誰かがケアを担うようになって、精神的な負担が全てなくなるわけではないので、心理的なサポートを継続する 一ことを挙げられました。

会場からの質問に対し、名城教授は『「かもしれない」と思ったら原点に立ち返って、厚かましくない感じで声を掛けること』『子や親の自尊心を下げないように、誰かが近くにいる声を掛けることが基本だと思う』などと、お話しされました。

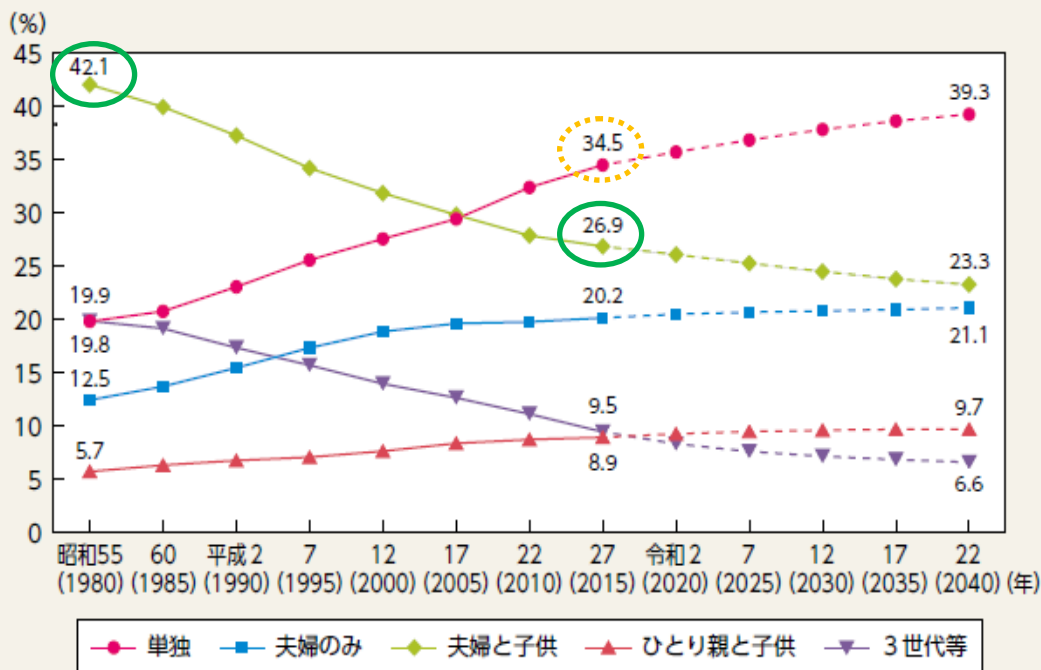


Pickup

『令和4年版 男女共同参画白書』から

特一6図 世帯の家族類型別構成割合の推移

白書には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による、就業者数の推移や、男女間の賃金格差が雇用形態別・年齢別等で、グラフや図表でわかりやすく掲載されています。



世帯の家族類型別構成割合の推移を見ると、「単独」世帯の割合は、平成27(2015)年に34.5%と全世帯の3分の1を超え、その後も上昇すると推計されています。昭和55(1980)年に42.1%と、4割を超えていた「夫婦と子供」の世帯は、平成27(2015)年は26.9%と、全世帯の約4分の1にまで減少し、その後も減少すると推計されています。

1. 国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)」「(2018(平成30)年推計)より作成。
2. 一般世帯に占める比率。「3世代等」は、親族のみの世帯のうちの核家族以外の世帯と、非親族を含む世帯の合算。
3. 「子」とは親族内の最も若い「夫婦」からみた「子」にあたる続柄の世帯員であり、成人を含む。
4. 平成27(2015)年は家族類型不詳を案分した世帯数を基に割合を計算している。令和2(2020)年以降は推計値。



相談室「ダイヤルうない」

周囲に話せる人がいない、自分の気持ちをわかってもらえない。そんな時、「ダイヤルうない」を利用していませんか。生きがい、家庭の問題など、女性の抱える様々な相談に応じ、自分の意思で人生を選択するために情報提供し、サポートします。

- 電話相談
- 面接相談(女性のみ・要予約)
- 法律相談(女性のみ・予約制)

 **098-861-7515**

月～土 午前9時～12時／午後1時～5時

「ストップ・DV」情報提供

相談室「ダイヤルうない」では、ドメスティック・バイオレンス(DV)で悩む方を支援するための情報提供を行っています。詳しくは相談室「ダイヤルうない」へお問い合わせください。

性の多様性に関する相談

あなたが「自分らしい生き方」を自らの意思で選択できるように、一緒に考えます。どなたでもご相談ください。



- ゆいレール「古島駅」から徒歩10分
「おもろまち駅」から徒歩20分
- 路線バス ★なは市民協働プラザ前バス停 10 牧志新都心線
★銘苅一丁目バス停 8 首里城下町線 徒歩3分
【国道330号側】★興南高校前バス停 ★真嘉比バス停 徒歩7分
【県道82号側】★古島バス停 徒歩7分

那覇市パートナーシップ登録

「那覇市パートナーシップ登録」は、一方又は双方の性的指向が必ずしも異性愛のみでない、又は性自認が戸籍上の性別とは異なる2人の申請に基づき、市長が両者をパートナーシップ関係にあると認めた場合、その関係について登録簿へ登録し、証明書を交付するものです。

■「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言(レインボーなは宣言)の理念に基づく取り組みです。登録によって何らかの法律上の効果(婚姻、相続、税金の控除など)が生じるものではありません。

登録数 45 組
2022年7月15日現在

■お問い合わせ・申請の予約■

TEL. **098-951-3203** ◆月～金:午前9時～午後5時
* 祝日、慰霊の日(6/23)、年末年始を除く

レインボー交流会の開催について

「交流の場がほしい」「性の多様性について語りたい」といった声から生まれた誰でも参加できる交流会です。

日時: 2022年9月3日(土)14時～16時
場所: なは女性センター(なは市民協働プラザ)
主催: 市民団体ていーだあみ

tiidaami.okinawa@gmail.com

※「レインボー交流会okinawa」で検索すると、フェイスブックで最新情報を確認できます。



with you おきなわ

沖縄県性暴力被害者ワンストップ支援センター

はやくワンストップ 24時間
TEL **#8891** 365日

※ 繋がらない場合は、098-975-0166へ

性暴力の被害にあわれた方の意思を尊重しながら、医療的支援を含めた必要な支援を行っています。24時間365日体制で相談を受け付けていますので、いつでも相談できます。

◆なは女性センター講座について

*受講希望の講座は、なは女性センター窓口、電話、FAX、Eメールでお申し込みください。また手話通訳、一時保育(現在休止中)の利用は、那覇市在住・在勤・在学の方が対象です。(事前予約が必要)

お問合せ

那覇市銘苅2-3-1(なは市民協働プラザ1F Aコア)
TEL. 098-951-3203 FAX. 098-951-3204
Email: s-heidan002@city.naha.lg.jp

開館時間 休館日
月～金: 午前9時～午後9時 年末年始(12/29～1/3)
土曜日: 午前9時～午後5時 日曜日・祝日・慰霊の日(6/23)

駐車場のご利用について

「なは市民協働プラザ」の地下駐車場と消防局隣の「ナハメカルパーキング」は有料です。センター利用者は、料金の一部が免除されますので「駐車券」を事務室にお持ちください。

★なは女性センター利用者の一部免除料金

最初の2時間まで	100円
最初の2時間を超え1時間までごとに	100円
※利用時間に1時間に満たない端数は1時間として計算。	



なは女性センター
メール



なは女性センター
ホームページ



Facebook